

守山まるごと活性化 議事要旨

作成日:12月21日

作成者:小嶋 隆弘

会議名: 平成28年度 第二回Cプロジェクト(食の地産地消推進プロジェクト)会議

日時: 平成28年12月19日(月)午後7時30分から午後9時まで

場所: 玉津会館 会議室1

出席者: 赤井清司、金野弘子、谷口喜久、堀井久嘉、岩佐芳江、藤木好美、澤田文子、
和田栄子、中嶋邦文、山本美智代、林俊郎、藤原弘

出席者(行政): <玉津会館> 富田館長、小嶋<守山市役所>文化財保護課:福島主任

使用資料:

議題

1. まる玉納豆について
2. 野菜直売所・諏訪鍋について
3. 矢島かぶらについて

会議要旨

内容

1. まる玉納豆について

- ・今年度の活動報告を行った。(6月下旬に種まき、以後プロジェクトメンバーの堀井さんにより刈取りまでの栽培管理を依頼。9月中旬に桑名市へ館外研修を行った。11月下旬プロジェクトメンバーで豆の脱穀作業、わらのすぐりをを行った。現在、豆が約20キロ、わらが約100束ある。)
- ・まる玉納豆の試作日程についての協議を行った。2月22日(水)午後1時より3日間かけて行う。(2月22日(水)豆を水につける作業等を、23日(木)蒸す作業、保温等を、24日(金)に取り出し、冷蔵を行う。)また、作業にあたり作った経験のある方にアドバイザーを依頼する。
- ・わらの消毒(熱湯消毒)は別日に行う。また、試験的に12月25日(土)に行いどのくらいで消毒したわらが乾くのかを調べる。調べた上で消毒の日程を決定する。
- ・試作量は10キロとする。場所は玉津会館の会議室および調理室を利用する。保温はホットカーペットで行う。
- ・わらだけで実験的に行ってみたいかどうか。
- ・余った10キロについては、レシピで作り方を示し学区内に広げるとか、教室をしてはどうか。
- ・次年度以降については、今後検討していく。

2. 野菜直売所および諏訪鍋について

(1)今年度の野菜直売所および諏訪鍋について

- ・今年度5回の直売所開設を行った結果をもとに意見交換を行った。
- ・直売所と諏訪鍋を1日するだけでも大変な手間であった。
- ・7月から10月までの間の短期間で行っているため、野菜のタイミングが合わない。また作り手も少ない。
- ・今年度3年目を迎えているが実際野菜の提供されている種類は減っている。PRも不足している。マンネリ化しているので何かテコ入れが必要だと思う。

(裏面に続く)

決定事項

- ・納豆作りの日程等の決定

次回以降について

会議要旨

内容

(2) 常設の野菜直売所について

- ・現在、常設の簡易直売所を作れないかどうかを市と協議中である。(現状、テントを組み立てて開設している。負担が大きい。)
- ・仮に常設直売所を設置した場合は定期的な運営を行う必要があると思う。それに伴い、運営をどうしていくのかという課題が生じる。
- ・運営にあたり、計画がいる。どのレベル(青空市のように定期的を実施するか、ボランティアによるイベント時のみ実施するか)でやるかによりスタンスが変わってくる。リーダーも必要である。
- ・諏訪屋敷について、現在、改修工事中で、完成後の活用方法として一月に一回何か開催したらどうかという案があり、そこで野菜の直売所を開設してみるのも一つの手であると思う。

3. 矢島かぶらについて

- ・玉津まるごと活性化プランでは12月に玉津こども園での矢島かぶらの紙芝居と収穫授業への参加、おうみんちへの品評会の参加を行った。(矢島かぶらについては種を市農政課より提供をいただき、玉津まるごと地産地消推進プロジェクトにより作付け、栽培を行い、玉津まるごと地産地消推進プロジェクトで出品した。)
- ・現状、矢島かぶらはメジャーなものではない。メジャーなものにしようとすると、矢島かぶらにしかないということへのPRが必要であると思う。